

# 「核の傘」は 日本を守ってはいない!

多くの日本人はアメリカが「核の傘」で日本を守っていると思い込んでいる。しかし、それは間違いだ。

アメリカ大統領の「ニクソン」が1972年2月21日に訪中する。ニクソン・中国の「毛沢東」の「密談」以来45年間。今日だいま、現在に至るまで、日本は「核の傘」の中から外に追い出されたままだ。

つまり、日本は中国やロシアなど核保有国の「核攻撃の脅威」に曝されている。私たち日本国民は「お人好し」なのでアメリカに対して「未だに核の傘で守って

いただいてありがとう」と感謝し、ニクソン大統領以来の「アメリカの裏切り」に気づかない。いや、気づかないふりをしているのかもしれない。日本人は日本とアメリカは同盟国なのだから「核の傘で守られている」と思っていたいのだ。

■バカの極みに日本の「憲法学者」という「おめでたい連中」がいる。

憲法を守れば戦争がなくなるのか?



元米国大統領リチャード・ニクソン

本当にそう思っているのなら、憲法が書かれている法律書を持って戦争や紛争の起きている所へ行き「世界平和」を実現させて欲しい。

**日本は憲法9条のおかげで70年以上平和なのだ『憲法9条にひれふせよ!』とマヌケな痴態を曝すがよい。**

◆「平和」とは力で勝ち取るものである。

世界中、暴力装置を持たない国はない。それが現実というものだろう。

分別盛りの大学の看板教授が国会の場に出てきて「夢見る夢子ちゃん」のように恥知らずな“無分別”を披露するのはNGだ。気色悪いだけである。

**最近では、北朝鮮の「核攻撃の脅威」までプラスされてきて日本の防衛は危なっかしい限りだ。**ヨーロッパの国々はロシアの核攻撃に対し、アメリカの核の反撃が保障されている。「核ミサイル」を自国で持たない代わりに「アメリカの核ミサイル」発射の権利をシェアしましょうという取り組みだ。

◆日本はアメリカの最大の同盟国なはずなのだが、核による反撃をアメリカが約束しないのはどういうことなのか？我が国に都合の良い解釈をすればオバマ元大統領は《日本なら「核ミサイル」の自主開発をしてもよい》というサインなのか？と不思議に思っていた。



2017年2月12日、北朝鮮による弾道ミサイル発射の様子。  
(朝鮮労働党機関紙の労働新聞電子版より)【時事通信社】



プーチン大統領（左）と安倍首相（右）

そこへトランプ大統領が日本は「核ミサイル」を持って「自主的に防衛しろ」と言ったのだから、日本は素直に「核ミサイル」の自主開発をするべきだ。

なに、難しいことではない。「種子島」で盛んに発射しているロケットに核弾頭をつけるだけでよいのだ。核弾頭となる「ウラン」や「プルトニウム」は原子力発電所に備蓄されているのだから、「核ミサイル」を開発しようと思えば1日～2日もあればできてしまう。

しかし、「広島・長崎」の被爆者のことを思うと「核爆弾」の開発・使用は日本人にとってはブレーキがかかる。

■「侍スピリッツ」「武士道」に大量瞬間殺戮の「核ミサイル」はふさわしくない。戦闘員以外に被害者が大量発生してしまうからだ。“殺し”の効率が良すぎる。

安倍晋三首相は誠意を持ってロシアのプーチン大統領を郷里の山口に招き、日露友好。戦後70年以上たった今日、プーチン大統領は「私の望みは一日も早い日露平和条約を結ぶことだ」というのだが、プーチン大統領の言葉とは裏腹に、ロシア軍は日本の北方領土の「国後島」と「択捉島」に最新鋭ミサイルシステムを新規導入して威嚇するのだからロシア人というのも 困った連中だ。

青山繁晴参議院議員は日本の外務省のお役人たちはプーチン大統領をニックネームで『ズル軍鶏』と呼んでいると紹介してくれたがナールホド、まさしくピッタリ。

プーチン大統領といえは2人の娘さんがいるようだが日本のお台場のショッピングモールで次女のエカテリーナ・プーチ



青山繁晴参議院議員

ンさんが目撃されている。なかなか可愛い（週刊文春）。習近平の娘より美人度は上かな。

今のところ、安倍晋三首相とプーチン大統領は柔道の「引き分け」まではまだ

漕ぎ着けていない。

安倍晋三首相とロシアのプーチン大統領とは気長な交渉を続けてもらいたい。

## いじめっ子ジャイアン (共産党の中国)をどうするか

ところで、日本にとっての差し迫った危機は『共産党の中国』だ。日本の尖閣諸島に中国政府の船、が領海侵犯を繰り返す。そのうちに漁民を装った民兵が尖閣に上陸してくるだろう。理由は天候悪化による緊急避難。偽装漁船の中には120人くらいの訓練された海上民兵がマシンガンを携えて潜んでいる。こんなものの上陸されたら海上保安庁程度ではどうにもならない。海上自衛隊の出動になるが、小さいといえど「小競り合い」「衝突」はなるべく避けたい、ならばどうするのがよいのか？



プーチン大統領の次女エカテリーナさん（左）

尖閣諸島は石垣島漁民にとっては大切な漁場である。

しかし、中国の偽装漁民や中国の政府の船が我が物顔で侵犯し、ご存知のように体当たりしてくる。危なくて漁どころではない。日本の海上保安庁の船は日本の漁船を守るのではなく、日本の漁船に「尖閣諸島に近づくな」と規制する。規制されて漁場に近づけないのなら漁場はないに等しい。

仕方なく日本の海上保安庁は不法に侵犯する中国の漁船や中国の政府の船へ「この水域は日本領ですから速やかに我が国から出て行ってください」と拡声器でお願いするだけで拿捕もしなければ銃撃もしない。なぜこんな情けないことになるのか？

国会で野党の共産党・民進党など野党の先生方が、憲法学者たちと結託して「安



保法制反対」「戦争法案」「安倍やめろオ！」とやっているからだ。

『日本国憲法』の第二章 戦争の放棄  
第九条 には「日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。」とある。

その2には「前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。」と書いてあるじゃないか。

ならば警察予備隊も、「自衛隊」も全部憲法違反じゃないのか？戦車も戦闘機も潜水艦もみんな憲法違反じゃないのか？防衛省などという国家機関があることが



変なので、解体するべきだろう。民進党の前身の民主党時代に防衛大臣はいなかったのか？日本共産党は未だに政権を取ったら赤軍を造って軍事力で全世界を共産化してゆくつもりなのか？

◆ところが、民主党時代も自衛隊はあったし、防衛大臣もいた。

2010年北沢俊美、2011年一川保夫、2012年田中直紀、2012年森本敏（民間人）。

失われた3年間の間になんと4人の防衛大臣が就任・辞任を繰り返している。たった3年で4人。

**防衛大臣らしかったのは民間人の森本敏さんだけだった。**

**憲法の条文通りなら、自衛隊は違憲だし、防衛大臣も不要である。予算もいらない。その金を年金や福祉に使える。**

だいたい尖閣諸島を日本人地主から「東京都が購入する」と石原慎太郎都知事が言ったら「東京都の石原慎太郎氏にわたさない！」と石原都知事より**高い値段を提示して買い取って国有財産としたのは**



**民主党の野田佳彦総理大臣ではなかったのか？**

◆尖閣諸島の国有化を不服とした中国は中国に進出していた日本企業を排斥する「官製デモ」を画策し、「破壊と略奪のバスツアー」を企画する。

暴徒となるお客さんはネットで募集し、予め作っておいたプラカードを手渡し、シュプレヒコールを数回練習した後、「襲撃場所」までバスで連れてゆく。交通整理をしているポリスの誘導に従って「トヨタ」や「パナソニック」のそばまで連れてゆき、激励されるのだから、デモで欲



北沢俊美 氏



一川保夫 氏



田中直紀 氏



森本敏 氏

求不満を解消できる連中の気合も入る。

口々に「愛国無罪！」と叫ぶデモ隊は徐々にヒートアップしてゆき日系のデパートやスーパーでは破壊・略奪。それら暴徒が共産党の支部に向かいだして破壊を始めると、あわてたデモの主催者側は武装警察を使って暴徒の鎮圧を始める。暴徒が荒れ狂った1週間ほどの間「習近平国家主席」は行方をくらましていた。おそらく、暴徒が抑えきれなくなった時に備え自分の所在は隠しておきたかったのだろうと、思う。

## 中国人民を鎮圧するのは 中国共産党の得意技だ。

さて「官製デモ」だが、暴徒が共産党幹部に向かいそうな事実を知るや、中国政府も不安になったのだろう、むやみに



反日デモでボロボロにされた日系スーパー

煽るようなことは控え「愛国無罪！」を免罪符にして暴れようとする若者たちを規制し始めた。

中国国内で「反日デモ」が下火になったと思ったら尖閣諸島に対する領海侵犯は増えていった。習近平主席の企画した「官製デモ」は中国国内だが、尖閣諸島は日本の領土だ。**偽装漁民**であれ、**中国政**



尖閣諸島へ侵犯した支那船団

府の船であれ、領海侵犯は国際法に照らして日本の主権を冒瀆する卑劣な行為である。何度注意しても日本の主権を脅かすのなら、仕方がない。中国を含め、世界各国に尖閣諸島を機雷封鎖する、と宣言しよう。

## アメリカの「飢餓作戦」で鍛えられた自衛隊の掃海能力 自衛隊の機雷処理能力は世界ナンバー1。

大東亜戦争時、アメリカ軍は日本の恐るべき海軍力を封じるために、日本列島全体をすっぽりと機雷網で包み込んだ。B29からパラシュートで投下された機雷



軍学者 兵頭二十八 氏

は12,329個。自衛隊により平成18年までに99%が処理されている。

タイミングよく講談社プラスα新書から『日本の武器で滅びる中華人民共和国』という本が出た。著者は兵頭二十八氏。



中国共産党を崩壊に追い込むことは可能だとある。

平成の軍学者として名をはせる著者によれば、

中国の核ミサイルは自衛隊のミサイル防衛システムでは撃墜できないという。ミサイルの迎撃は難しいが、日本の機雷を活用すれば中国を経済的に破滅、すなわち共産党を崩壊に追い込むことが可能だと断言する。



地政学的に中国と対峙（たいじ）せざるをえないマレーシア、ベトナム、フィリピンと協力して、中国の大陸棚に広がる水深30メートル未満の海に機雷を仕掛ければよいという。  
(講談社+α新書・840円+税)

.....  
**アメリカ大統領に『集団的自衛権』を行使させるには「段階」と「手続き」がいる**  
.....

兵頭二十八氏は、日本人には「戦争のセンスがない」本当に困ったものだ、と書いている。

戦争を有利にしたかったら「トリップワイヤー」を仕掛けるべきぞ、と主張する。「トリップワイヤー」とは鳴子の紐。

戦国時代に忍びの者が紐をひっかけて鳴子がカラカラと鳴って《曲者じゃ！出会え、出会え！》というあの鳴子です。



尖閣諸島など「中国が実効支配しよう」と企む島には、ごく少人数の監視隊を短期ローテーションで「替わりばんこ」に駐在させておく。

人数が少ないので中国がいきなり大人数で攻めかかってくれば、監視隊は全滅するかもしれない。しかし、彼らが鳴子の紐となって「中国が日本に対し、侵略戦争を始めた」という証拠を世界中に知らせてくれます。それがすぐに想像できる中国は直接侵略をためらい、**自重**することになります。

この呼吸が「ルールのないケンカ」に慣れていない日本人には分からないように見えます。

第1次世界大戦以降、**国際法体系では『侵略者に対する自衛の戦争だけが合法的な戦争』**だからです。

尖閣諸島に置いた「トリップワイヤー部隊」が初戦で全滅、もしくは大損害を被ったときに「侵略者は中国だ」という国際法上の大義名分を得て、日本は中国と堂々の自衛戦争をしてもよくなるのです。

そのような「段階」と「手続き」を経て初めて、同盟国であるアメリカ大統領がアメリカ軍に「日本に加勢せよ」と命ずることができる。

アメリカ国民、アメリカ議会、全世界への**説明の必要**がなくなるのです。

これが反対に日本人の一人もいない尖

閣諸島という無人島に中国の武装集団が上陸して「尖閣諸島は中国のものだ」と宣言してしまったら、日米安保条約の集団的自衛権が発動されるかどうかわかりません。アメリカ大統領はその時の思惑次第で傍観しても構わないのです。

## 兵頭二十八氏は「民主主義革命」を推進する。

中国人自身ならびに中国に圧力をかけられている国々に一番良いのは、中国共産党体制を「民主主義革命」で崩壊させること。マレーシア、ベトナム、フィリピンなど地政学的に中国の味方にならない

国々へ日本から「機雷敷設専用超小型潜航艇」の武器援助をする。驚くほど安い負担で、東アジアから侵略的先制体制を除去し、世界の平和に貢献できる、と提言しています。中国は「機雷戦」で敗北すると、共産党執行部が人民の支持を失います。「民主主義革命」へと激動してゆくことでしょう。

**機雷は地雷と異なり、敵の艦船乗務員に脱出の機会を与えるので、中国人の戦死者も少なくて済みます。**共産主義体制崩壊後は1989年の天安門事件以来の民主政治を手に入れるでしょう。

兵頭二十八氏の「日本の武器で中華人民共和国が滅びる」という意味だという。



←機雷

↑機雷の爆発力